

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
発行人 真庭 拓郎
〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp
URL:<http://www.pref.gunma.jp/kyoi/23tone/index.htm>

児童生徒と共に育つ

利根教育事務所管理主監 宇敷 重信

利根教育事務所では、今年度、延べ148校(園)への指導主事、社会教育主事による学校(園)訪問を実施させていただきました。学校や地域の課題に即したメリハリのある指導・支援をとおして学校のお役に立てるように努めるとともに、授業研究会等を行う中で勉強させていただきました。ありがとうございました。

今年度は、授業者の意識や実際の指導に、いくつもの変容がみられるようになりました。3つ例示します。

- ・1単位時間のみに目を向けた単発的な授業の工夫 → 単元構成における連続的・構造的な工夫
- ・児童生徒の発表が中心で意見交換に乏しい交流 → 中核となる観点に焦点化した思考を鍛え合う交流
- ・地域の方々が参加することに重点を置いた協働 → ねらいを効果的に達成するための協働

また、今年度は新しい人事評価制度が、P→D→C→Aのサイクルによる向上の循環を期してスタートしました。新しい人事評価制度は、「指導と評価」の教職員版であると考えられます。

・児童生徒 ; 自己評価・相互評価、教師による評価 → 「生きる力」の獲得
・教職員 ; 目標管理、業績評価 → 職能成長、学校組織の活性化等 → 児童生徒の「生きる力」の育成
子どもも大人も、独り決めでは成長も目的達成もできません。他者の意見等に素直に耳を傾け、客観的で謙虚な自省を行うことで、進むべき方向や重点内容、方法の工夫を見出せたり、他者からの期待と信頼を心のエネルギーとして、潜在している資質・能力を顕在化できたりするのだと思います。本制度がもつ真の機能が十分に発揮されるよう、皆さんと共に努めていきたいと考えています。

「指導と評価」という言葉を聞くと、「物の考え方の3つの原理」(安岡正篤氏)が脳裏に浮かびます。

- ①長い目でみる
- ②多面的・全面的にみる
- ③根本的にみる

児童生徒や教職員、保護者・地域が共に育つための大切な考え方であると思います。

総務グループ

平成19年度から学校事務の共同実施が本格実施されます。

学校事務の共同実施については本誌第4号で概要等お伝えしたところですが、本年度末で試行期間が終了し、来年度から本格実施されます。実施の目的は、学校事務職員が共同で複数の学校の事務・業務を効果的・効率的に実施することにより、学校事務の適正かつ円滑な執行、事務処理体制の確立及び事務機能の強化を図るとともに、学校管理運営全般に係る支援や教員のゆとりの確保を図るなど、学校教育の充実を目指して実施されるものです。

1年間の試行の結果、共同実施による成果や課題も浮かんできました。試行の結果を踏まえ、来年度の本格実施に向け、事務職員はもとより各教育委員会、学校においては校長はじめ教職員の皆さんの御理解と御協力が不可欠であります。関係者が一体となって取り組むとともに、制度が円滑に機能し、より一層の学校教育の充実が図られますようお願い致します。

学校教育グループ

適正で特色のある教育課程の編成・実施・評価について

利根教育事務所管内では、今年度から冬季休業日(後期)が廃止となりました。10月の『群馬県教育課程の編成及び実施状況調査』では、管内の小学校6年生で前年度実績に比べて平均42時間、中学校3年生で平均

33時間の増時数がありました。この増時数の活用や教育課程の管理にかかわる管内の取組状況等は以下のとおりです。

増時数の活用等

- ・すべての学校で増時数に関わる内容の年間指導計画への位置付けが進んでいます。
- ・多くの学校で、学力調査等で明らかになった課題をもとに、重点を置く教科や領域、単元等を検討して、特に力を入れて指導すべき内容を明確にし、増時数を有効活用しています。
- ・育成したい資質・能力を明確にして、単元の指導計画を見直し、思考力を高めるための学習等に増時数を配当するなど、有効活用している学校もあります。

教育課程の管理

- ・週案簿やパソコンを活用して定期的に時数の集計を行い、見直しをもって日々の授業を行ったり、毎時間のねらいや評価項目を週案簿に明記して授業の充実に努めたりなど、量的・質的な管理が行われています。
- ・各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間の実施内容を、学習指導要領の目標、内容と照らし合わせ、教育課程上の位置付けの見直しが進められています。

次年度に向けて

平成19年度の教育課程の検討が進んでいることと思います。来年度も、今年度とほぼ同じ総授業時数が見込まれます。今年度の増時数の活用及び教育課程の管理に関する成果と課題を踏まえ、学力向上など学校の教育目標の達成につながるような評価・編成・実施を期待します。また、学習指導要領に示された各教科等の内容を確実に実施するとともに、各学校のよさ・強みや課題解決が反映された特色ある教育課程の工夫をお願いします。

生涯学習グループ

学校支援センターの取組 ～社会教育主事等の学校訪問から～ 沼田市立沼田東小学校

「これから図書室で、読み聞かせを始めます。」

昼休み、コーディネーターの方による校内放送が入った。図書室のカーペット敷きのコーナーには、多くの児童が、地域の読み聞かせボランティアの方の周りに集まってきた。『サンタのおもちゃ工場』という仕掛け絵本を読み始めると、児童から「わあっ」と歓声が上がった。

沼田東小学校では、『学習支援センター』という部屋が設置され、学習ボランティアの方々が入校した際に、打合せや休憩、時には児童との交流の場として使われています。

本校では、読み聞かせの他に、次のような地域のボランティアの方々との連携した教育活動を行っています。

- ◎ 家庭科の手縫いなど直接学習を指導・補助する活動
- ◎ 社会科の見学や遠足などの引率を補助する活動
- ◎ 農業や福祉などの体験を指導・補助する活動
- ◎ 校内パトロールや下校時の安全パトロールなどの活動
- ◎ 地域の方による生き方教育に関する全校講話(朝礼)等



今年度から実施したサマースクール『夏休みわくわく活動』では、27の学習活動や体験活動の場を企画しました。来年度は、『学習支援センター』をさらに機能させ、地域の方の協力を得た活動を取り入れ、より充実したものにしていきたいということでした。また、『学習支援センター』の地域への周知と協力をお願いした広報誌『学ボラだより』も発行され、学校と地域が連携・協力した教育活動が一層推進されるものと期待されます。

今年度は、学校支援センターの推進・充実を図るために、担当指導主事とともに管内の小中学校16校を訪問させていただきました。どの学校も地域の実態に応じた学社連携・融合による取組を行っていました。

学校支援センターを機能させることにより、次のような成果が生み出されていることが確認できました。

- ◆ 地域の方の専門性を生かした授業等への支援により、学習活動の質的な高まりが見られること
- ◆ 引率の補助や安全パトロールなど、教師だけでは対応しきれない部分を補うことによる効果が見られること
- ◆ 地域の方が学校を理解するとともに、ボランティア活動をとおして自らの自己実現が図られること

今後も、学校と地域の双方に意義をもたらすことができるよう、学校支援センターの推進に努めてほしいと思います。